

■優勝決定は北海道大と北海学園大の直接対決へ。第7節

第49回北海道学生選手権は第7節の10月8日、札幌市円山競技場で1部と2部の各1試合を行い、全日本大学選手権につながる1部は、北海学園大が35-0で帯広畜産大に快勝した。この結果、試合の無かった北海道大と北海学園大が4連勝で並び、第8節の直接対決で優勝を争うことになった。帯広畜産大は2勝2敗。2部は東京農業大が44-0で北海道科学大に大勝して2連勝。2部優勝と、1部最下位が決まっている北星学園大との入れ替え戦出場を決めた。北海道科学大は1敗。第8節は10月15日、札幌市円山競技場で1部の釧路公立大-北星学園大、北海道大-北海学園大の2試合を行う。

注目の4強対決は、北海学園大のパス攻撃が爆発して帯広畜産大を退けた。北海学園大は第1Q7分、QB篠原浩大（4年、札幌北陵高）からWR加藤真之助（2年、札幌藻岩高）への11ヤードTDパスで先制すると、第2QにはWR成田滉佑（2年、札幌白石高）へ18ヤード、25ヤード、20ヤードの3連続TDパスで加点。第3QにRB高杉武生（3年、浦河高）の2ヤードTDランで駄目を押した。帯広畜産大は主力OLの故障欠場もあって自慢のラン攻撃が不発。第4Qに変則ラインからRB安澤十野（1年、帯広柏葉高）、QB外崎智文（3年、大野農業高）がゲインを狙ったが、第1ダウンを更新するのが精いっぱいだった。



北海学園大の高木幸樹HCは「スカウティングの成果で試合の立ち上がりから、やれることをやれた」としたうえで「北大戦は相手のミスをどれだけ誘発し、そこを突けるか」と次節の直接対決に目を向けた。3TDキャッチのWR成田も「相手の弱いところが自分の前だった。篠原さんのパスも良かった」と振り返った後で「北大戦も、最後までボールから目を離さずにチームに貢献したい」と決意していた。一方、帯広畜産大の玉川雄太HCは「相手守備にアジャストできなかつた。けが人が多く、レシーバーがOLに

入ったため、パス攻撃のターゲットも一人だけになってしまった」と完敗を悔しがった。

2部の東京農業大と北海道科学大の対戦は、東京農業大が試合開始1分に、RB大類楽（3年、神奈川・平塚農商高）の61ヤードTDランが飛び出し、あっさりと先制。第1Q3分にはQB金井康晴（4年、神奈川・舞岡高）からWR浅川夏暉（1年、東京・安田学園高）へ17ヤードTDパス、同10分にはKも兼ねるWR木村拓海（2年、山形・上山明新館高）が23ヤードFGを決めて17-0とした。第2、3QにはQB金井がWR木村へ16ヤードと46ヤードのTDパスを続けて決めて加点。第4Q3分には、加藤駿弥（2年、東京・開地日本橋学園高）がパントブロックしたボールを相手エンドゾーンで押さえてTD。同5分にもRB嶋津慶二（1年、静岡・田方農業高）が44ヤードランでTDを奪い、リードを広げた。

2年ぶりの単独チームで出場となった北海道科学大は選手13人の少数精鋭で臨んだ。RB吉住忠丈（4年、北広島西高）、RB竹内連也（1年、札幌工業高）のラン、QB藤川拓斗（3年、浦河高）からTE広島拳（3年、札幌新陽高）へのパスなどで挑んだが、反則やミスもあり、思うようにボールを運べずに終わった。

東京農業大の比嘉匠HC代理は「今日はRBが活躍してくれた。入れ替え戦で対戦する北星学園大は、オープン戦で負けているので、パス守備をしっかりと、1部復帰を果たしたい」と決意。2TD、1FGのWR木村は「札幌学院大戦に続いて2TDできて良かった。FGはポストとバーに2回当たって入った。運が良かった」と喜んでいた。一方、北海道科学大のOL/DL千葉悠太主将（4年、岩見沢西高）は「2年ぶりの単独チームは楽しかった。次の札幌学院大戦に向け、ほぼ全員がプレーできたのも良かった」と満足そうだった。

